

3月1日(土)〜7日(金)

春の火災予防運動

「火は見てる あなたが離れる その時を」

「火は見てる あなたが離れる その時を」をスロガンに、3月1日(土)〜7日(金)の1週間、全国一斉に「春の火災予防運動」が行われます。
この機会に、皆さんのご家庭でも防火についての話し合いをしてみたいかがでしょうか。
詳しくは消防本部予防課 指導調査係 ☎471・0119へ。



19年度防火ポスター最優秀賞 下里中学校 丹間結貴さんの作品

日ごろから訓練を
いざ火災が起きると、慌ててしまってもできなくなりま
す。日ごろから自治会や事業
所で行う訓練に積極的に参加
しましょう。

高齢者を火災から
守ろう

火災で亡くなる半数以上は



住宅用火災警報器には光で知らせるもの、音で知らせるものなどさまざまなタイプがあります

住宅防火いのちを守る 7つのポイント

- 寝たばこは、絶対やめる
- ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用
- ガスコンロなどのそばを離れるときは、必ず火を消す
- 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する(22年4月1日より既設住宅にも設置義務化されます)
- 寝具や衣類からの火災を防ぐために、防災製品を使用する
- 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器などを設置する
- お年寄りや身体の不自由な方を守るために、隣近所の協力体制をつくる

高齢者(65歳以上)です。そこで、高齢者の部屋は、一方向だけでなく、二方向に避難できるようにしておきましょう。

放火にご注意

放火や放火の疑いによる火災が、出火原因の上位を占めています。家の周りには燃えやすい物を置かないようにしましょう。協力し合える地域づくりを日ごろから地域の方と交流をし、住民同士の連帯感と防火意識を高め、いざというときはお互いに協力し、被害を小さくしましょう。

救急車の適正利用で 救える命を守ろう

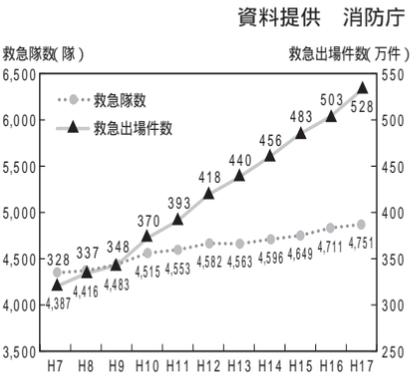
身近で、自分に、もしもの場合を想定し、救える命を守るために、救急車の適正な利用について考えてみてはいかがでしょうか。詳しくは消防本部 ☎471・0119へ。

近年、全国で救急車の出動件数が急増しています。救急車を要請した人の約半数は、入院の必要のない軽症者でした。実際、以前に比べ救急車が現場に到着するまでの時間が長くなっており、このような状況では一分一秒を争う生命の危険にある傷病者への対応が遅れてしまう恐れがあります。

増える救急車の出動件数

急病や交通事故など医師の治療を受けなければ生命に危険が及び、迅速に搬送する適当な手段がない傷病者を、救急車は24時間いつでも安全に医療機関などへ搬送します。しかし、緊急事態に誰もが利用できる救急車の台数には限りがあります。救急車の出動件数は年々増えています。

表1 救急隊員数と救急出動件数の推移



17年中は約528万件で、10年前と比較し61%の増加です。国民の25~26人に一人が、年に1回救急車を呼んでいるという計算になります。それに比較し、救急隊の増加は10年間で約8%と、救急車の需要と供給のバランスが崩れているのです(表1参照)。

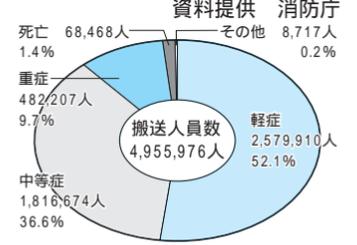
通常、119番の出動要請を受けると、現場を管轄する最寄りの救急隊が出動します。一つの管轄で要請が重なった場合には、遠方にある別の救急隊が出動することになり、現場への到着が遅れてしまいます。このように出動要請が増えたことに加え、交通渋滞も深刻化しています。その結果、119番を受けてから救急車が現場に到着するまでの時間は全国平均で6分5秒と、10年前に比べ0分5秒延びています。

救急車で搬送された傷病者の約半数が軽症

17年中のデータでは、救急車で搬送された方の約52%は、入院の必要のない軽症者でした(表2参照)。
東京消防庁により実施された消防に関する世論調査(18年)によると、救急車を呼んだ理由として、「自力で歩ける状態でなかった」(52.0%)、「生命の危険があったと思った」(28.8%)を挙げている方が多くを占めます。しかし、中には、「夜間・休日で診察時間外だった」(16.6%)、「どこの病院に行けばよいかわからなかった」(8.1%)、「救急車で病院に行ったほうが優先的に診てくれると思った」(4.1%)といった救急車を呼ぶ理由として不適切な回答も少なからずありました。
「救急車に乗れば急患扱いで待たずに受診できる」という思い込み、「無料で病院を選んで運んでくれる」といった倫理観の欠如により、救急車を利用している方がいるのです。

このままでは、本当に迅速な救急救命処置、医療機関への搬送が必要な重症患者のもとへ救急車の到着が遅れ、助かる命を救えなくなる可能性があります。

表2 17年中の救急自動車による傷病程度別搬送人員



救急車を呼ぼうか迷ったときには、よく考えましょう

救急車は、最善を尽くして、現場に迅速に到着しようと努力しています。これだけ多くの出動件数の中には、残念ながら、本当に救急車が必要であったのかと疑問に思う事例もあります。例えば、「風邪をひいたとき」「歯が痛むとき」「突き指をしたとき」「首を寝違えたとき」といった軽い症状の場合には、本当に救急車を呼ぶ必要があるのかどうか考えてください。

また、緊急性がなく自分で病院に行ける場合や定期的な通院などでは、タクシー代わりに救急車を要請することは控え、一般の交通機関を利用しましょう。(抄 政府広報オンライン)

民間救急をご利用ください

消防本部では、休日・夜間の病院情報(場所・診療科目等)を案内しています。また緊急性がない通院・受診、入退院や病院間の転院搬送の際に民間救急やタクシーをご利用ください。

東京民間救急コールセンター
民間救急に関する問い合わせ
ナビダイヤル = ☎0570・039・099
PHS等ナビダイヤルが使用できない場合 = ☎03・3262・0039